

お父さん・お母さんは風しんに対する免疫を持っていますか？ ～風しん抗体検査と風しん予防接種について～

なぜ風しんの予防接種が必要なのですか？

風しんは飛沫（咳やくしゃみに含まれる小さな水滴）を通して感染が広がる病気です。かかった後の予後は良好な疾患ですが、まれに脳炎や血小板減少症などの合併症を起こすことがあります。妊娠中の女性（特に妊娠20週頃まで）が風しんにかかるとお腹のお子さんに風しんウイルスが感染して、目・耳・心臓などに重い障害をもつ先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があるため、特に注意が必要です。



風しんの予防には、**ワクチンが最も効果的**です。風しんから身を守り、家族や職場など身の回りの方への感染を予防し、子どもを先天性風しん症候群から守るためにも、風しんの予防接種をぜひ受けましょう。

お父さんと風しんワクチン

日本では、2018年の夏以降風しんの流行が続いており、その流行の中心は30歳代以上の成人男性です。30～50歳代の男性は、今まで公的に風しんワクチンを受ける機会の無かった人が多いため、免疫を持っていません（実際に、約10～20%は抗体が陰性です）。そのため、風しんを発症した男性から妊婦さんへの感染による先天性風しん症候群が危惧されています。

いま、この世代の一部男性に対して定期接種が行われています。

風しんワクチンを受けるには

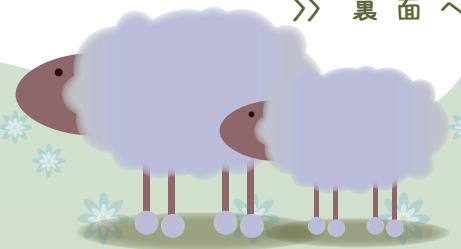
○ 風しんの第5期定期接種の対象の方

2019年度から2021年度の3年間に限り、1962（昭和37）年4月2日から1979（昭和54）年4月1日までの間に生まれた男性は風しんの抗体検査と予防接種を無料で受けられるようになりました。

対象者にはすでに区からクーポン券と抗体検査の受診票が送付されていますので、まずは病院や診療所などで風しんの免疫の有無を調べる血液検査（抗体検査）を受けましょう。検査の結果、免疫が十分でなかった場合は、ワクチンの接種が受けられます。抗体検査・ワクチン接種ともに費用の自己負担はありませんが、1人1回のみです。

職場の定期的な健康診断でクーポン券を利用して抗体検査を受けられる場合もありますので勤務先や自治体に問い合わせてみてください。また、夜間・休日でも風しんのワクチン接種に対応している医療機関もありますので、区のホームページで指定医療機関をご確認ください。隣接している**自由が丘メディカルプラザ**も指定医療機関です。

≫ 裏面へ



お父さん・お母さんは風しんに対する免疫を持っていますか？ ～風しん抗体検査と風しん予防接種について～

〇目黒区にお住いの19歳以上60歳未満の方で以下の条件に該当する方
現在目黒区では風しんの抗体検査と風しん予防接種の対象を拡大して助成を行っています。

- ① 妊娠を希望している女性（注：妊娠中の方は除く）
- ② 妊娠を希望している女性又は妊娠中の女性と同居している方

※過去に風しんの確定診断を受けたことがある方、または風しんを含むワクチンを2回以上接種したことが確認できる方は原則助成の対象外です。

検査と接種の実施場所は、区内委託医療機関のみとなっています。こちらの助成も**自由が丘メディカルプラザ**で実施可能です。詳しくは、目黒区保険予防課や碑文谷保健センターにお問い合わせください。

目黒区以外にお住いの方は、お住いの自治体にお問い合わせください。

お父さん・お母さんへ

現在の定期接種では1歳と小学校入学前の2回麻疹風しん（MR）ワクチンを接種することになっています。**1歳以上で風しんを含むワクチンを2回以上接種していれば免疫を持っている**と考えてよいでしょう。この機会に、ご自身の接種歴を母子手帳などの記録で確認してみてください。

接種回数が2回未満だった方は追加の接種をしましょう。ただし、妊婦さんには風しんワクチンの接種ができません。妊娠していない時期に接種し、その後2か月は避妊するように注意してください。

家族とこれから生まれてくる赤ちゃんのためにも、ぜひ風しんワクチンの接種を検討してください。

2020年5月21日
日本小児科学会認定専門医
齋藤 義弘

